

『かじ!かじだー!』

2歳児 2月



エピソード

園庭の小屋の中で、「かじ!かじだー!」と叫んでいたA児とB児。保育者が「どうしたの?」と聞くと、A児は「せんせい、かじだよ!」と小屋の中を指差しました。よく見てみると、小屋の内側に暖炉と炎の絵が描いてありました。その後も何度か「かじだよ!」と知らせに来たので、保育者が「消防隊員です!どうしましたか?」と言うと、A児は「かじ!ここだよ!」と炎の方を指差しました。保育者がホースで火を消すような動作をし、「もう大丈夫です!」と言うと、A児は嬉しそうに「うん!」と言いました。その後も何度かやりとりを楽しんだり、保育者と同じように火を消す動作をしたりしていました。

しばらくして、A児は急に小屋を飛び出し、細長いウレタン積み木を持ってきました。そして、積み木を脇に抱え、小屋の炎に向かって「しゅー!」と言いました。B児は、A児の後をついてウレタン積み木を取りに行き、同じように遊んでいました。

保育者の思い

炎の絵を見て、「火事」と言ったことが面白い! A児は乗り物が好きで、保育室でもよく消防車の図鑑を見ていたので、そこから火事というイメージに繋がったのかな?

保育者が反応してくれることを喜んでいる。火事というイメージから、遊びややりとりが広がるといいな。

保育者や友達の動きや言葉を真似してみたり、顔を見合わせて笑い合ったりしている。周りのひとと関わって遊ぶ楽しさを感じているんだな。

細長い積み木をホースに見立てている姿にびっくり!! 消防隊員がホースを持って火を消していた姿を思い出して、似たようなものを探してきたのかな?

子どもの育ちや学び

- ・炎の絵を見て“火事”というイメージを持ち、言葉にして友達や保育者に知らせています。
- ・保育者や気の合う友達と一緒に、簡単な言葉のやりとりや同じ動きを楽しんでいます。
- ・自分のイメージに合うものを選び、見立てて遊んでいます。

家庭だったら・・・

『～のつもり』になって遊んだり、簡単なごっこ遊びをしたりすることが楽しくなる時期です。自分なりに言葉にしたことに保護者の方が反応してくれると、「うれしい!」「もっとやってみたい!」「次はこうしてみようかな」と遊びやイメージが広がっていくと思います。ご家庭でもぜひ子ども達と一緒にごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しんでみてくださいね♪